

1992年度幹事報告

庶務幹事この一年

高エネルギー物理学研究所 小林 克己

岩崎会長のもとで一年間庶務幹事として学会運営のお手伝いをしてきました。学会の行事・事業報告は他の幹事からあると思いますので庶務幹事からの報告は特にありませんが、一年を振り返って見た感想を少し述べさせていただきます。

本学会の運営は、評議員会が議決機関となり、会長及びそれを補佐する幹事がその方針に則って色々な実務を行なう形態となっています。異なる多くの分野の方が参加している本学会にとってはそれらの方々の代表である30人の評議員の方々の意見を会の運営に反映させることは重要ですが、評議員会を頻繁に開くことは出来ません。やむをえず、会長および幹事の集まり(幹事会は定款、細則にない)で相談の上、判断する事が少なくありません。もちろんすべて評議員会で事後承認し

ていただくわけですが、その判断が難しいことがありました。一方で、評議員会をいかにして成立させるかという実務的な問題もありました。評議員会は過半数以上の出席者をもって成立すると決められておりますが、多忙な評議員の方々に出席していただけるように各種連絡を頻繁に取る必要がありました(この大部分は事務局の西野さんにやっていただいた)。『評議員会は開くのが難しい』と『幹事会では決定できない』との間で悩むことがありました。

このような中で何とか責務をまっとうできたのは皆様のご協力のおかげです。特に事務局の西野さんにはお世話になりました。有難うございました。

本会では、会員の増加運動を積極的に行なっております。ご周辺の方で未入会の方がおられましたら、是非ともご勧誘下さいますようお願いいたします。

入会申込みは本誌綴じ込みの「入会申込書」をご利用下さい。

その他、お問い合わせは下記まで…。

〒112 東京都文京区小石川2-3-4 川田ビル アイオニクス(株)内
日本放射光学会事務局

TEL 03-3812-0920/FAX 03-3812-3997

会計幹事この一年

高エネルギー物理学研究所 飯田 厚夫

本誌「会告」にありますように、'92年度の収支決算は約100万の黒字となり、前期繰越剰余金とあわせ剰余金は約238万円となりました。

'92年度はほぼ予算通り執行されました。予算を上回ったのは、学会誌出版費のみで(約100万円の超過)、他の諸経費は予算通りかまたは予算以下で済ませることができました。これは事務局をはじめとする皆様のご協力によるものと感謝しております。'92年度は特別な支出を要する事業が無かったことも、順調に推移した理由と考えられます。つまり定常状態での学会の運営は、現状維持であれば会計上はあまり問題がないとも言えます。一

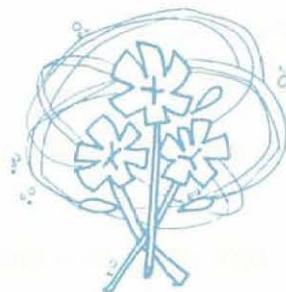
方、過去の当学会の収支を見る(表参照)と、報告書や名簿の出版などにより100万円単位の支出があり、何か事業を行う場合には十分な配慮が必要かと思われれます。

なお、行事特別勘定(年会などの行事の剰余金)が現在200万円ありますので、この扱いについてもそろそろ議論が必要かと思われれます。

一昨年度に続き、昨年度も本会の会計幹事をおおせつかり、何とか過ごせましたのも、事務局の西野さんのご協力によるものであり、深く感謝致します。

放射光学会の年度毎の収支

年 度	収 入	支 出	繰越金
1987	4,325,000	730,624	3,594,376
1988	7,863,625	9,900,754	1,557,247
1989	12,891,737	14,330,915	118,069
1990	13,943,225	12,872,598	1,188,696
1991	16,336,172	16,233,073	1,291,795
1992	14,251,049	13,159,754	2,383,090



1992年度幹事報告

編集幹事この一年

筑波大学 物理工学系 大嶋 建一

編集幹事として丸3年が過ぎました。この間、放射光学会誌としてふさわしい記事は何か、特に広い分野にわたる会員の共通の話題を念頭に、編集委員の方々といっしょに考えてきました。時には座談会やインタビューを企画したり、特集号を組んでみたり、千川先生、富家先生の随筆も不定期に掲載しました。また宮原さんの放射光基礎講座もこれからが楽しみです。さらには来日中の外国の研究者の滞在記も参考になることがあります。でも最も大切なことは解説、トピックスおよび実験技術の記事の充実でして執筆者には無理なお願いをして優れた内容の作品を作っていただきました。今後四月から発足した浜谷編集委員会の下で、より充実した会誌が皆様のお手元に届くことでしょう。

ところで最近私自身放射光関連の雑誌について感じたことを述べてみます。それはといいますと、本誌、フォトンファクトリーニュース、SR技術科学情報およびすぐに発刊されると思われるSPring-8懇談会誌の4誌が多くの方に届くこととなります。編集の裏方を見てきたものにとっては大変なことになるのではないかと心配しています。何しろ延べにして60名近い編集委員が記事を探すのですから当然のこととして取り合いが始まると思われます。現に同業誌のみならず物理学学会誌等の大手との競合もある様です。そこで提案なのですが、四誌の独自性を尊重しつつ、共同で編集を企画して少しでも時間を節約する様にしたらいかがでしょう。

バックナンバー紹介

日本放射光学会第2回講習会予稿集

放射光ユーザーのための光源論

主催 日本放射光学会 共催 高エネルギー加速器科学研究奨励会
 体裁 B5版, 106頁 定価 2,000円 (送料込)

内容	1. 光源用蓄積リング概論	加藤政博 (高エ研)
	2. 放射光の発生と挿入光源	山本 樹 (高エ研)
	3. ビーム不安定性	坂中章悟 (高エ研)
	4. ビーム不安定性とアクティブフィードバック [縦方向カップルドバンチ不安定の抑制]	春日俊夫 (広大理)
	5. 蓄積リング真空の諸問題	堀洋一郎 (高エ研)
	6. ビーム変動とフィードバック	中村典雄 (高エ研)

行事幹事この一年

NTT 尾嶋 正治

1992年度の行事委員会は以下の活動方針のもとに活動を行った。

- (1) 放射光研究の裾野をさらに拡大することをねらいとして、放射光の新しい利用法に焦点を当てた講演会を企画する。
- (2) 放射光学会年會に主体的に取り組むため、行事委員は全員実行委員を兼任し、太田委員長のもと、企画・運営に当たる。

行事委員は、泉弘一（東大工）、宇佐美徳子（高エ研）、中村典雄（高エ研）、水木純一郎（NEC）の4名である。

講演会については、『放射光フォーラム'93－放射光が拓くミクロの世界－』と題して、放射光の新しい利用法として注目されるマイクロマシン形成、マイクロビームなどをトピックスとした企画

を行った。その実行のため、3回の行事委員会を開催し、企画・運営を行った。そして平成5年1月22日（金）、学習院大学百年記念会館小講堂にてフォーラムを開催した。本フォーラムの目玉であるマイクロマシン形成については、独カールスルーエ原子核研究センター Microstructure Technology 研究所Menz教授（所長）を本フォーラムのため特別に招待した。放射光の持つ優れた特性を上手く活用した成果を講演して頂き、好評を博した。

当日は合計99名の参加があった。最近の経済活動の停滞の影響をもちに受け、参加申込みが少なく、一時はどうなることかと心配したが、直前2週間前あたりから続々と申込みがあり、ホッとした。企画のタイミングというか、とにかくその難



図1 放射光フォーラム'93終了後の幹事メンバー一同
行事委員、放射光学会事務局西野女史、およびアルバイト3名
(フォーラムの座長水木氏は所用で早退のため不在)

しさを痛感した。当日は、委員全員が朝8時前からフルに走り回り、成功裏に終えることが出来、一同ヤッタという充実感に浸った。終了後に撮った記念写真(図1)から満足感を想像して頂きたい。詳細報告は本誌前号を参照して下さい。

また、年会実行委員会については、本誌次号に太田委員長(東大理)から詳細な報告が寄稿されると思うが、(1)開催場所の確保、(2)企業展示の募集、(3)特別講演者の招待、(4)一般講演の応募が主な課題であった。これまでに太田委員長のもと3回の実行委員会が開催されて、大筋が決定され、また佐藤(能)プログラム委員長(東大薬)のもとに3回のプログラム委員会が開催され、詳細プログラムが決定した。

今回はやはり国際化の一環として独ミュンヘン大学J. Patel教授(元AT&Tベル研究所)を招待し、分子科学研究所井口教授とともに特別講演

を行って頂くことになっている。企業展示は不況の影響をまろに被ったが、昨年よりやや少ない23社を集めることが出来た。また、一般講演とシンポジウムを併せると161件もの応募があり、post deadlineを加えると過去最多の170件に達しそうな勢いである。当日(5月10, 11日)の成功を祈ろう。(本号がお手元に届くころには終了しているであろう)

93年度も行事幹事を継続することになったが、また面白い講演会を企画したいと張り切っている。是非多くの方々に参加して頂きたい。また第7回年会は関西地区で開催されることになろう(未定)が、行事幹事として支援していきたい。

ともあれ、1年間御協力頂いた行事委員の皆さん、学会会員の方々、事務局など多くの方々に厚く感謝いたします。93年度もよろしく願いいたします。

1992年度幹事報告

渉外幹事この一年

富士通研究所 古宮 聰

前幹事の柿崎さんから引き継いで、あっという間に一年が過ぎてしまいました。引き継ぎ時点での宿題は、Synchrotron Radiation Newsの会員への的確な配付の確認でありました。これについては、柿崎幹事が再三にわたり相手方と折衝し、改善の約束までできていたのですが、まだ充分とはいえない状況で、来年度の宿題として残してしまいました。来年度の新会員名簿の発行を機会に、再度折衝するのが良いかと考えております。

それにしても、一年を振り返り、渉外幹事の主体的な任務が何なのか、今もってあまりよく理解できておりません。とにかく、予定外の突発的な事柄も含め、本学会の運営を円滑に進めるうえで起こる対外的な諸業務であろうとの見当ぐらいで一年を過ごしました。こうした意味では、対外的な関係から、本学会の運営に重大な支障をきたすような大きな渉外も発生せずホットしております。この一年、各幹事や事務局の方々にいろいろお世話になりました。